

第2次嘉麻市総合計画 基本構想が策定されました

第2次総合計画

基本構想とは

基本構想の内容

第1次総合計画の策定から10年が経過し、その計画期間が終了することから、これまでの計画の成果を検証し、市民意識調査、社会情勢の変化等を踏まえて計画を見直し、第2次総合計画を策定するものです。特に、本市において少子高齢化、人口減少による様々な影響が懸念され、本市を取り巻く状況は年々厳しくなっています。

今回の計画は、今後10年間の行政運営の総合的な指針として、市民にまちづくりの長期的な展望を示し、ともにまちづくりに取り組むことを目的として策定されました。

嘉麻市のまちづくりが目指すもの

1市の将来像

本市には、古くから受け継がれてきた豊かな自然や、伝統、文化など多くの誇るべき資産が眠っている。その宝を今一度掘り起こし、さらに磨きをかけ、次世代へ引き継ぐと同時に、その宝を活かしたまちづくりを行い、県内外から「行きたい、住みたい」と思われ、市民が地域への誇りと愛着を持ち「住み続けたい」と感じ、さらには、全国の人たちが嘉麻市と「つながりたい」と思うような嘉麻市の実現を目指す。

将来像

いきたい 住みたい つながりたい
遠賀川源流のまち 嘉麻
～みんなで創る“誇れるふるさと”
“未来のふるさと”～

2まちづくりの視点

将来像実現のため、次の4つの視点を踏まえ施策を推進する。

- ① 将来を見据えた段階的なまちづくり
- ② 地域の資源を活かし地域の魅力を高める
- ③ 目的に応じた柔軟な連携によるまちづくり
- ④ 健全な行財政運営

目標人口

人口ビジョン・総合戦略で「2060年に人口22000人を維持・確保することを目指す」としているため、この計画では2026年の目標人口を34500人とした。

土地利用の方針

1新しい都市構造の形成

新庁舎の建設及び交通体系の再編に合わせ、計画的に「整備」「改善」「保存」するゾーンを設定し、わかりやすいまちづくりを進める。

- ① 拠点の整備
- ② 拠点を結ぶ骨格軸の充実
- ③ 各ゾーンの機能の維持・向上
- 2土地利用の方針
- ① 拠点
- 行政機能拠点（新庁舎周辺、稲築地区）
- 教育文化・商業振興拠点（碓井庁舎周辺、碓井地区）

● 観光・定住促進拠点

（嘉穂庁舎周辺、嘉穂地区）

- 子育て・定住促進拠点（山田庁舎周辺、山田地区）
- ② 骨格軸・ネットワーク
- 広域交流軸
- 広域連携ネットワーク
- ③ ゾーン
- 田園・居住ゾーン
- 山林ゾーン
- 自然公園ゾーン

施策の体系

○ まちづくり基本方針

- 1 豊かな暮らしを支える活力あるまちづくり
若い世代の定住化やUターンを促進するため、暮らしの基盤である「産業振興と雇用の確保」に向けた施策に取り組む。
- 2 誰もが健やかに暮らせる福祉のまちづくり
若い世代の移住・定住の促進に向け、妊娠から就学まで切れ目のない支援、段階や個人

の実情に応じた適切な子育て支援を推進する。
3 ふるさとに誇りを持つ教育・文化のまちづくり
市民一人ひとりが、いつでも、どこでも、あらゆる機会において学習することができ、その成果を地域等に活かせる社会の実現を目指す。

4 自然と共生する安心安全なまちづくり

豊かな自然とのどかな田園環境の中で、地域コミュニティや買物・通勤等の利便性が確保された「住んでみたい」「住み続けたい」と思えるような住環境の形成に取り組む。
5 市民と行政による協働のまちづくり
市民と行政、男女が互いに社会の対等な構成員として、その個性と能力を発揮して築くまちづくりに向け、偏見や差別のない社会づくりに向けた啓発を推進する。